

早寝・早起き・朝ご飯＋運動で生活のリズムを整えましょう！

生活指導だより
第84号

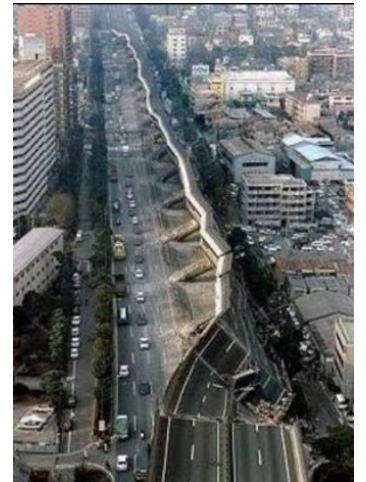
そろえる

溝辺中学校
令和6年1月17日発行

あの日から、29年（10,592日） 阪神・淡路大震災

1995年1月17日、阪神・淡路大震災が発生、戦後初の大都市直下型地震は、関連死を含6434人の命を奪い、住まいや仕事など暮らしの土台を崩壊させました。あの日から2024年1月17日で29年10,592日がたちました。

29年前 私は豊田市にある大学の合宿所でこの地震を経験しました。強い揺れ（記憶では震度3くらいか）で目が覚め、テレビをつけると、右の写真のような破壊された神戸の街や立ち上がる煙、途絶えることのないサイレンの音、懸命に救助をする人、救助を求める人々などが記憶に残っています。日本人として、1.17は忘れることのできない日です。今の生徒は、この震災を知りません。震災から月日が過ぎ、当時の状況を伝え、継承することが難しくなっています。しかし、その後も全国各地で東日本大震災や熊本地震といった大きな災害が次々と起こっています。震災の記憶や経験を、後に続く若い世代にどう伝えて、生かしてもらおうか。それを模索する取り組みが各地で続けられています。



阪神・淡路大震災で600mにわたって横倒しになった阪神高速神戸線＝1995年1月18日、神戸市東灘区深江本町

被害の概要 1995年1月17日火曜日 午前5時46分

兵庫県南部地震が発生し、国内史上初の震度7が観測されました。関連死を含めた死者が6434人、住宅被害が約64万棟の大震災。2月14日、政府は「阪神・淡路大震災」という呼称を決めました。

1995年は「ボランティア元年」 167万人が被災地へ

全国から駆けつけた多くのボランティアたち、当初の主な役割は食料・物資の配給、高齢者らの安否確認、避難所運営でしたが、仮設住宅への入所が進むにつれて、引っ越し作業の手伝いや支援が必要な高齢者や障がい者のケアへと変わりました。

一方、組織の維持が難しくなったり、活動費用のねん出が困難になり、解散するボランティア団体もありました。ボランティア活動そのものをどうとらえるかという課題が示されました。

1152の避難所に31万人 神戸市では7人に1人が避難

震災から6日目の1月23日、1152の施設に31万6678人が避難していました。

自治体は、学校などの公共施設を地域防災計画に基づく避難所に指定していましたが、想定を遙かに超える避難者が出たことで、多くの人が指定外の公園や民間の建物に身を寄せました。

多くは避難所に追加指定されましたが、当初は救援物資や食事が配給されなかったケースもありました。避難所では自治組織が生まれ、運営ルールなどが決められました。

写真と記事 神戸新聞NEXTから



高架とともに崩れ落ちた阪神電車Ⅱ1995年1月18日、神戸市灘区大石東町



付近の住民も協力して破壊家屋からの救助が行われたⅡ1995年1月18日午後1時半、神戸市灘区鹿ノ下通



仮設電話が設置された避難所では、大勢の人が列を作った。Ⅱ1995年1月18日、午前神戸市長田区蓮池町